

世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

入試日程	問題	出題分野・テーマ	難易度
2/3	問1～問26	様々な地域の思想・宗教に関連する歴史的事象	標準
2/4	問1～問26	様々な国家・王朝の対外関係に関連する歴史的事象	標準
2/5	問1～問26	様々な国家・王朝の政治家に関連する歴史的事象	やや易

●出題形式

いずれの日程においてもリード文のない一問一答形式で出題されており、設問数は26問である。全日程とも4つの短文の正誤判定問題を中心に構成されており、これに加えて2月3日・4日の問題では4つの語句から適切なものを選択する問題、4つの出来事の並べ替え問題が出題された。2月5日の問題では、並べ替え問題は出題されず、かわりに2つの語句の組み合わせ問題が出題された。地図や写真などの図版を使用した形式の問題は出題されていない。

出題形式はすべてマークシート方式で、記述解答問題はない。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

先史時代に関する問題はないものの、すべての日程で古代史から現代史まで幅広く出題されている。

b. 出題内容

一問一答形式で出題されているため、それぞれの設問で問われている内容に関連性はない。ヨーロッパ史に関する設問が9～13問と最も多いが、アメリカ、イスラーム世界、インド・東南アジア、中国・朝鮮など様々な地域について出題されている。北欧、ラテンアメリカ、中央アジアといった教科書での記述量が少なく、対策が不十分になりがちな地域に関する設問もあり、注意が必要である。

出題されている分野は政治史が中心であるが、どの日程でも哲学、歴史学、天文学といった学問、アンコール=ワットやタージ=マハルといった建築など文化史に関する出題も見受けられる。特に2月3日の問題は出題テーマが思想・宗教であったこともあり、他の日程よりやや文化史の知識を要する設問が多かった。

●問題の傾向

26問中21～24問は正誤判定問題であり、他大学と比較すると、圧倒的に正誤判定問題の出題が多い。単なる歴史用語の暗記ではなく、一つひとつの歴史的事象を理解すること、さらに文章を正確に読み取り、身につけた知識をもとに、正誤を判断する力が求められている。

●難易度

問題の難易度は標準的で、教科書レベルの知識が問われている。正誤判定問題は大学入学共通テストに比べると選択肢の一文がやや長い設問も見受けられるが、極端に細かな知識を求めるような問題は出題されていない。基本的な知識を身につけ、正誤判定問題の演習を繰り返し行うなどの対策をすれば、十分に高得点をとることができる難易度の問題である。

世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

●計画的に学習を進め、全時代・全地域の対策をしよう

椋山女学園大学の入試は古代史から現代史までバランスよく出題され、一問一答形式で構成されているため、出題される地域も様々である。2月3日は思想・宗教が出題テーマであったが、例えば社会制度や貿易がテーマになれば社会・経済史に関する出題が増えることなども予想され、通史を学習したあとにテーマ史の対策にも取り組めると、より高得点を期待できるようになる。正誤判定問題が多く出題されることを踏まえると、問題演習を繰り返す時間を確保する必要もある。全時代・全地域の学習に加え、頻出テーマ対策や問題演習までできるよう、計画的に学習を進めてほしい。

●教科書の精読を通して歴史の流れを理解しよう

設問の大半をしめる正誤判定問題でしっかりと得点するためには、歴史用語の表面的な暗記ではなく、歴史的事象の理解が必要である。問われている内容は教科書レベルの知識であるため、まずは教科書を精読し、「それぞれの歴史的事象がどこで起こり、どのような国や人物が関わったのか」、「どのような背景や原因があり、どのような結果や影響をもたらしたのか」を丁寧に確認しながら学習してほしい。

●積極的に正誤判定問題の演習を行い、問題を解く力を養おう

椋山女学園大学の入試はどの日程においても8割以上が正誤判定問題で構成されており、この形式の問題の対策をしているか否かで合否が分かれるだろう。ぜひ正誤判定問題の対策に重点をおいた問題集を一冊購入し、徹底的に演習に取り組んでほしい。正誤判定問題を解く際は、「どの国の出来事か」、「時代はいつごろか」、「因果関係は正確か」など選択肢の一文一文を正確に読むことを意識しよう。そのうえで、選択肢の誤っている部分は正しい表現に書き換えながら問題を解いてほしい。誤文の根拠がわからない場合は、その歴史的事象に関する理解が不十分だということの意味しているため、必ず用語集などで調べて知識を増やしていこう。

「ビスマルクについて」、「諸子百家について」といった正誤判定問題は、教科書に沿って学習するとそれぞれまとまった知識として身につけているため、比較的解きやすい問題である。一方、「古代から現代にいたるまでのイスラエルの宗教事情について」、「イギリスとドイツの関係について」といった正誤判定問題ではいろいろな時代、また、「第二次世界大戦後のアジアの政治家について」という正誤判定問題では、中東・東アジア・東南アジアといった複数の地域の歴史的事象に関する知識が1つの設問の中で問われており、苦手意識をもつ受験生もいるだろう。しかし、多くの正誤判定問題を解いていると、徐々に異なる時代や地域に関する知識も増えていき、総合的に考え問題を解く力が養われていく。基礎的な正誤判定問題の演習を通して選択肢の中で正誤性が問われやすい部分を意識できるようになったら、次はやや難度の高い正誤判定問題にも挑戦してほしい。